

## (10)九州



九州地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、緩やかな改善の動きに足踏みがみられる。

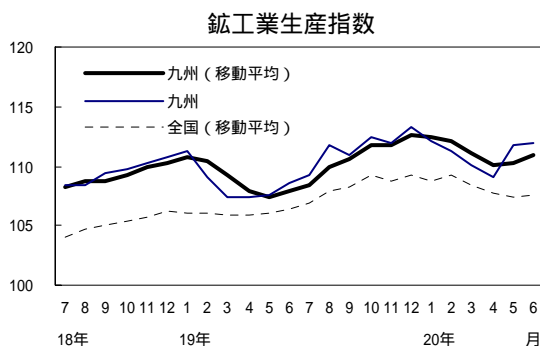
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年5月）	今回（平成20年8月）	
景況判断	緩やかに回復	回復の動きに足踏み	
鉱工業生産	堅調に推移	おおむね横ばい	
個人消費	やや弱含み	弱含み	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用	依然として厳しい状況であり、緩やかな改善傾向に一服感	依然として厳しい状況であり、緩やかな改善の動きに足踏み	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電子部品・デバイスは、薄型テレビ向け集積回路などでは高水準の生産が続いた一方、ゲーム向けなどのモス型計数回路（ロジック）を中心に減少している。輸送機械は、船舶が高水準の受注残を抱えフル操業を続けているほか、自動車の海外向けが堅調なためおおむね横ばいとなっている。食料品・たばこは、ビールや清涼飲料水が堅調でおおむね横ばいとなっている。一般機械は、アジア向けに鍛造リアクターなどの受注があったことから増加している。化学は、工業用触媒などが堅調でおおむね横ばいとなっている。



### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	15.6	5.5	3.6	1.3	10.8
輸送機械	15.4	6.2	0.4	0.2	14.2
食料品・たばこ	10.6	1.7	1.0	0.8	3.4
一般機械	10.6	6.2	1.1	0.5	1.1
化学	8.2	1.3	0.5	1.0	3.0
鉱工業	100.0	1.3	0.1	0.2	0.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

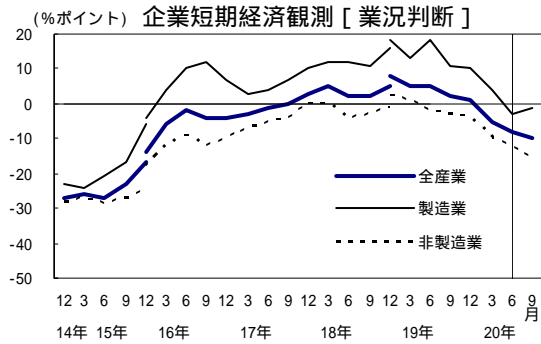
2. 4~6月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

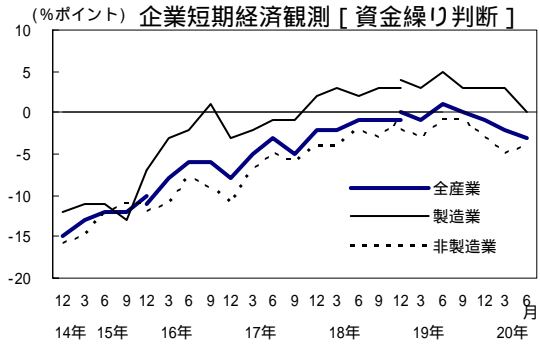
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

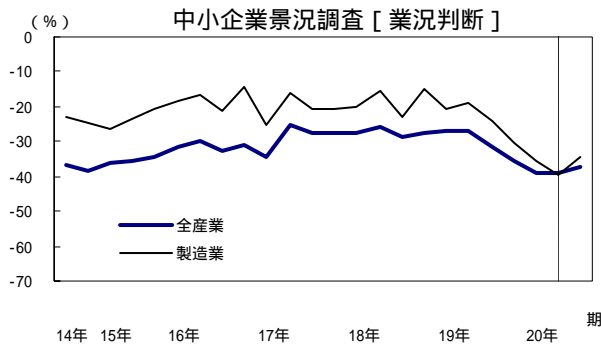
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年9月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

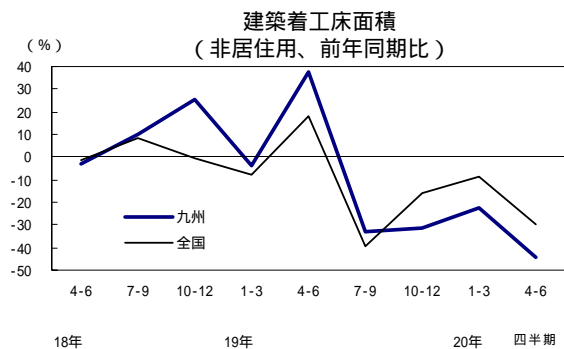
「原油価格及び物価の高騰で、年商1億程度の中小法人の経営者及び個人事業主は、借入の追加申込を行わず、既存借入の利息負担を軽減するため低金利の商品へ借り換えを希望するケースが多い(金融業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	16.7( 4.6)	0.7( 2.5)
製造業	32.3( 2.8)	5.9( 3.9)
非製造業	5.1( 6.2)	6.7( 1.3)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は弱含んでいる。

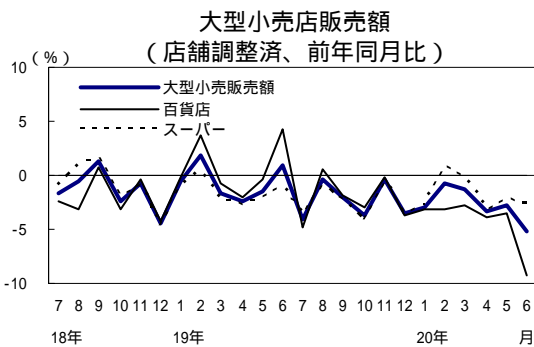
#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、改装や催事の影響で飲食料品に動きがみられたものの、天候不順で春・初夏物を中心に衣料品が不調で全体としては前年を下回った。5月は、4月に続き改装などが影響して飲食料品は前年を上回ったものの、気温の変動や雨天日が多かったことが影響し夏物衣料が伸び悩み、全体では前年を下回った。6月は、前年6月末だったクリアランスセール初日が今年7月になったことや天候不順の影響で衣料品が大幅減となったほか、来客数の減少により飲食料品も前年割れとなった。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の7月の売上高は前年同月比で2.0%減となっている。

スーパーは、野菜、精肉、総菜など飲食料品に動きがみられたものの、天候不順の影響で衣料品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「石油価格等の高騰から諸物価がじわじわと上昇するなかで、ゴルフ客がプレー料金にますます敏感になっている。更なる料金割引を行う業者も増えてきている(ゴルフ場)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



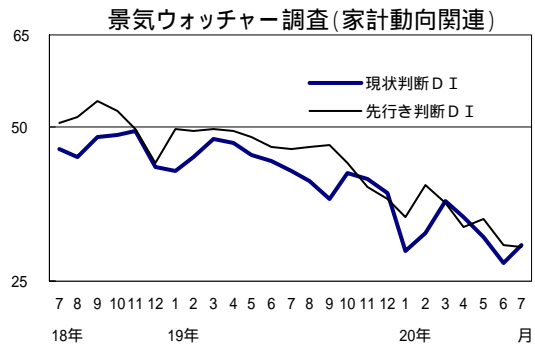
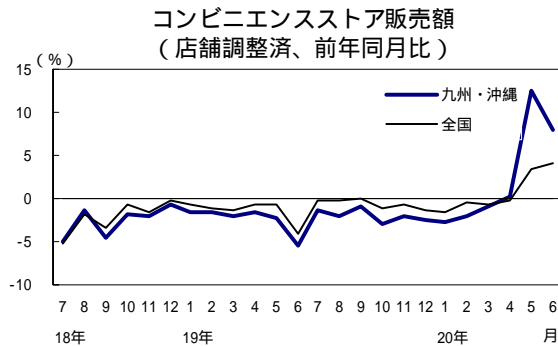
(前年同期比、%)

	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月
大型小売店	2.3	2.7	1.7	3.8
百貨店	2.4	2.4	3.1	5.5
スーパー	2.2	2.9	0.8	2.6
コンビニ	1.5	2.5	1.8	6.9
景気ウォッチャー	40.8	41.1	33.6	31.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

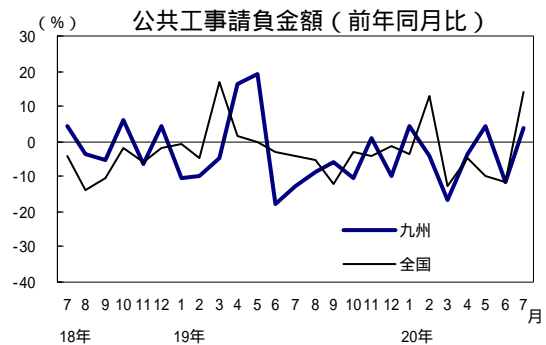
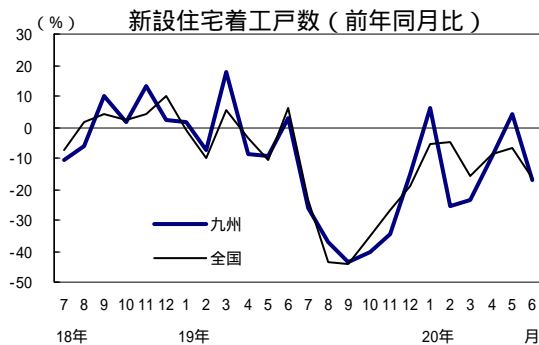
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



### (2) 住宅建設は減少している。

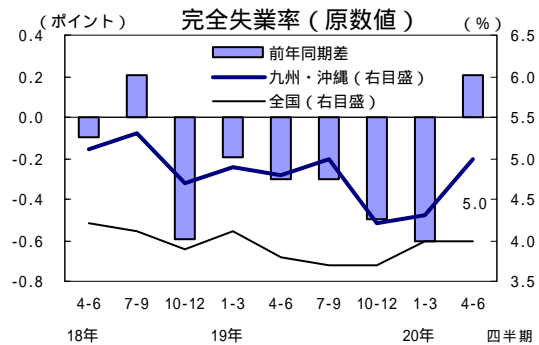
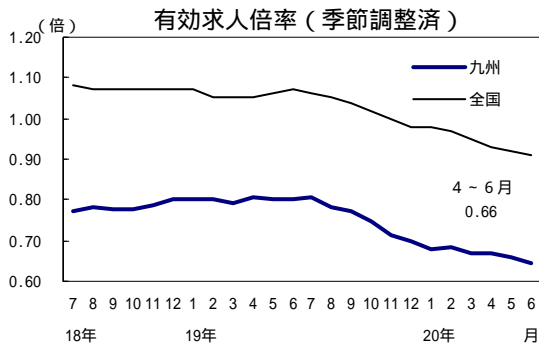
分譲は前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体でも減少している。

### (3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、緩やかな改善の動きに足踏みがみられる。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



#### 景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

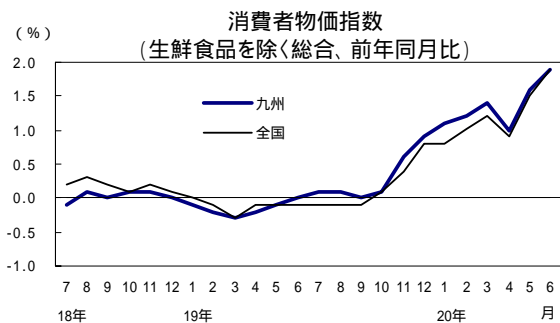
「1週あたりの求人受理件数だけをみると、前年に比べ半減している。採用人事担当者の話を聞くと、景気の低迷・悪化傾向を受け採用意欲にかげりが出てきており、最近では採用環境が悪化してきていることを実感している（学校[大学]）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月	20年7月
倒産件数	321	310	313	352	111
(前年比)	19.3	10.3	16.8	8.0	9.9
負債総額	892	1,523	795	1,712	230
(前年比)	84.6	46.8	12.7	69.5	7.3



#### 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

##### <現状>

- ・梅雨が明けてから天候に恵まれ、屋外のビアガーデンが連日盛況で、売上が前年を上回っている（観光型ホテル）

##### <先行き>

- ・夏休みの旅行はマイカー利用の旅行が弱く、公共交通機関を利用した旅行が多くなっている。また、暑さのせいか海辺の施設が良い。この傾向が今後も続く（旅行代理店）

